

二〇二一年度入学試験 AT

京都学園中学校

国語的内容

注意

- 問題は全部で十ページあります。
- 「試験開始」の合図があるまで問題を開いてはいけません。
- 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 質問がある場合は、静かに手をあげ、教員が来るのを待ってください。
- 「試験終了」の合図があったらすみやかに解答をやめ、以後は教員の指示にしたがってください。

□ 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。ただし、作問する上で本文の一部を変えています。

ふりかえってみると、私は子供のころは、必ずしも人のことを考えて行動するタイプではなかったかもしれません。

工業高校に入りましたが、成績は悪く、落ちこぼれてした。授業に追いつくための勉強会を自分で開いたりしていたのですが、それは「助け合い」というよりは、たんに効率的に成績を上げる手段にすぎませんでした。

ところが、学期末テストの直前に大好きだった祖父が急に亡くなり、病院にかけつけたり、お通夜に出席したりして勉強ができませんでした。そのとき、友人たちが助けてくれたのです。

自分には「助け合い」という気持ちが無かったにもかかわらず、友人たちは助け合いの温かい心をもってくれていたのです。なんだか自分が恥はずかしくなっていて、それが①変わるきっかけになりました。

「利害関係ではなく、別の何かでつながってくれている人たちがいる。こういう人を裏切ることばできない」と思ったのです。それ以降は、私もこの人たちのためにできることを、全力でやろうという思いを抱いだくことになりました。

そういう関係を続けてきたら、私が渡わたしたものが倍になって返ってきて、その倍を返そうとしたら、さらに倍になって返ってくるというように、どんどん大きくなっていきました。

高校の卒業時には、私が学科の*首席として卒業することができました。落ちこぼれの自分が首席にまでなれたのは、友達のおかげです。助け合いの心の勝利でした。これが一つの成功体験になりました。

大学に入ってから同じことがありました。私は工業高校でプログラミングばかりしており、大学には推薦すいせんで入学しました。すると、大学受験をして入ってきた人とはまるで学力が違ちがったのです。同じ試験を受けると、成績はいつも下のほうです。入学したときの最初の英語の実力テストは、

一〇段階のいちばん下でした。ただ、高校時代の成功体験の感覚が残っていたため、大学でも仲間をつくって、仲間を大切にしてあげれば上がったといけるのではないかと考えたのです。

実際にそのとおりになり、自分ができることはやり、友達からはたくさん助けてもらって成績が上がっていききました。そのおかげで、大学もいちおう首席で卒業というかたちになりました。逆の経験もしました。

大学時代には、児童ボランティアの*サークルで活動していました。学園祭のときには、屋外で駄菓子屋や子供向けブースをつくったり、屋内では一部屋を使って人形劇、影絵劇、工作教室などを行ったりしました。

子供向けの*コンテンツをたくさん用意し、着ぐるみをつくったり、着ぐるみで外をまわったり、学園祭の四日間、いっさい飽きさせないという方針で、来てくれた子供たち全員と遊びました。

アルバイトもすべてやめて、学園祭に専念しました。*トップダウンで*ビジョンを示し、「これをやります」「次はこれをやります」と言ったら人がついてきてくれて、会としては大成功を収めたかに見えました。でも、私と意見が分かれた人たちが少数派になり、彼らはサークルに来づらくなってしまったのです。

「ああ、すべて台無しだ」という感覚になりました。

まわりの人からは大成功と言われましたが、まったくそうは感じられませんでした。私とかかわらなくなった一人ひとりの顔を何度も思い出しました。いまでも後悔しています。

ドラえもんづくりにおいても、切り捨てた人が一人でもいるなら、自分としては気持ちがついていきません。ドラえもんができたとしても、^②誰かの「しかばね」の上に立ったドラえもんという感じがしてしまいます。

ほんとうにあったかいドラえもんをつくって、仲間を切り捨てることなく、仲間を増やしていきたい。そういう世界観をもって開発するドラえもんでありたいと思っています。

サークル活動を通じて、私にはトップダウン式の組織のあり方は向いていないことがわかりまし

た。それならば、仲間と一緒に、どんな組織をつくれればいいのか。

(中略)

私のドラえもんづくりの*アプローチは、*AIと*認知科学と*神経科学の研究を合わせたような、総合的な「知能」づくりです。もちろん、私一人ではあることではありません。

そこで、さまざまな分野の人が*フラットに議論し、情報共有できる場をつくったわけです。

(：中略：) 若手研究者だけでなく、老若男女が参加し、ビジネスパーソン、起業家、ライター、小説家、漫画家、医者、ダンサーなどもいます。

*フェイスブックに登録している二五〇〇人のうち、これまでイベントには一九〇〇人ほどが参加してくれました。運営に携わってくれているメンバーは、そのうち二〇〇人ほどです。

会の目的は定めていません。名目上の代表はいますが、リーダーという役割ではありません。代表が「会場はこちらです」と、会場の外で案内役という名の雑用に徹している一方で、はじめて参加した人が司会や講演者として前に立つということもよくあります。

会のなかでは、たとえ六十代、七十代のシニア世代の方に対しても、大学生や、場合によっては高校生も「それは違うと思います」と言って議論することが日常茶飯事です。でも、議論が終われば、みんな仲よくご飯を食べにいたりしています。

私としては、「(A)」のような組織ができればいいと思っています。みんながバラバラの方向を向いているけれども、なかにはすぐおいしいものが詰まっている。無理に方向性をあわせたりせず、バラバラのままでもいい。でも、社会を変えるエネルギーが蓄えられていく。そんな組織です。

誰が上とか下とかではなく、「この人を支えたい」という人がいれば、全力で支える。お互いに完璧ではないのですから、支え合うかたががいいと思っています。

ドラえもんに出てくる登場人物は、みんな不完全です。のび太も、ジャイアンも、スネ夫も、しずかちゃんも不完全。パパもママも不完全です。その不完全性が共感を得たりしながら、作品のおもしろみを生んでいます。

不完全だからこそ、人と人が助け合ったり、人とロボットが助け合ったりする。それが、感動につながっています。

のび太のもっている③劣等感^{れっとう}は、誰もがもっているものではないかと思えます。その劣等感をどうしていいかわからない。うまく言えないけれど、誰かに助けてほしい。そんなのび太を助けてくれるのが、ドラえもんです。ジャイアンも自分のことをうまく表現できなくて、暴力などに走ってしまいます。

私は、児童ボランティアの活動をずっとやってきましたが、子供たちを見ていて、誰もが「のび太性」や「ジャイアン性」をもっているのではないかと感じました。

のび太を注意力不足、ジャイアンを落ち着きがないと見ている人もいます。ただ、それは欠点ではなく、その特徴^{とくちょう}を前向きに思わせてくれるのが、ドラえもんです。助け合いながら、不完全な面をみんなで補い合っています。

のび太を助けるドラえもんも、不完全な子です。性能が悪いロボットという設定ですし、ドラミちゃんにはぼろ負けです。ドラミちゃんのほうが性能が高く、賢^{かしこ}くて、強い。

でも、ドラえもんは性能はポンコツでも、心に閉じては、ほんとうにすばらしいものをもっていて、不完全なのび太と不完全なドラえもんが手をとってあいながら成長していきます。そこがドラえもんのすばらしい点です。

（大澤正彦『ドラえもんを本気でつくる』）

A 日程 [A T]

*首席： 成績が最もよい人。 サークル： 関心や趣味しゅみを同じくする人の集まり。
コンテンツ： 内容。

トップダウン： リーダーが意志決定し、その指示で他のメンバーを動かすこと。

ビジョン： 見通し。 アプローチ： 近づく方法。 AI： 人工知能。

認知科学・神経科学： 科学の研究分野の一つ。

フェイスブック： インターネット上で情報共有することが出来るサービスの一つ。

問一 ―― 部 ① 「変わるきっかけ」とありますが、筆者はどのように「変わ」ったのですか。

その「変わ」った点を簡潔にまとめて答えなさい。

問二 高校・大学の試験に関して、筆者が大切にしてきたことを本文中から六字でぬき出しなさい。

問三 ―― 部 ② 「誰かの“しかばね”とありますが、それは何を指していますか。本文中の語

句を使って二十字以内で説明しなさい。

問四 (A) に入ることばとしてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ピーマン イ スイカ ウ ウニ エ タコ

問五 ―― 部 ③ 「劣等感」とありますが、同じ意味を表すカタカナ語を次から選び、記号で答えなさい。

ア ネガティブ イ ジェラシー ウ レtter エ コンプレックス

問六 筆者が考える「ドラえもん」の世界観とはどういふものですか。本文をふまえて説明しなさい。

□ 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

ところで、*この番組の四回目のテーマは「国際化」でした。この企画がもちあがったときに、日本の高校生たちがもつとも強い関心を示したテーマがこれでした。アメリカの高校生たちは、ドラッグ、暴力、経済不況ふきょうなど、むしろアメリカの国内問題に関心を示したといひます。

話し合いの準備が始まると、^①アメリカ側と日本側の「国際化」についての意識のずれがはつきりとしてきました。というのもアメリカ側が、国際社会のルール、PKO（国連平和維持活動）、貿易問題などのような、どちらかという政治経済的側面をとりあげようとするのにたいして、日本側は「異なる国で暮らす個人と個人の相互理解そうごをどうすすめるか」などのような、いわば異文化理解にかかわる問題のほうに、より重心をかけようとしたからです。

本番前に日本側の高校生が話し合い、強調したい A を二つに絞りこむことにしました。一つは国際化をめぐる日本の若者の現状をどうとらえるかという現状認識にんしきの問題、二つ目は、では 今 後どうすればよいのかという国際化への対応の問題です。

前者については、つぎのようなことが出ました。まず、日本の若者は外国人と接するチャンスが少なく、どうしても対応がぎこちなくなってしまうがちだということ。しかも、「外国⇨欧米系の白人」という*ステロタイプの発想も根強いということ。ただその一方では、海外にたいする日本の若者の関心は高く、外国人との交流を望んでいる人の多いことも事実なのです。

国際化への対応についても意見が出ました。たとえば、国際化⇨西歐化という見方をまずあらた

めること、そして、国内にいる身近な外国人との交流をもっと考えるべきだということです。また、個人と個人の友情が積み重なって平和も生まれるのだから、そうした相互理解を意識的に追求すべきだという意見も出されました。今回のディスカッションで日本側がいちばん強調したかったのはこの点です。それと並んで、戦争や平和にかんする歴史教育が大切なので、まず教育から変えてゆく必要があるという指摘もありました。

しかし、いざ本番になると、日本側の意図は相手側になかなか伝わりません。そもそもめつたに外国人と話す機会さえない日本の高校生の意識と、異なる民族の人びとが身近にいるのがあたりまえになっているアメリカの高校生の意識とでは、そう簡単にかみ合うはずがありません。その結果、アメリカ側がつぎつぎと質問の矢をくり出し、日本側はそれに答えるだけでせいっぱいという展開になってしまいました。

アメリカの高校生の質問は「^③ではなぜ日本はアジアではなく欧米との交流に熱心なのか」「いまの若者とその両親の世代では『国際化』のBに違いがあるのではないか」「日本の十代の若者が外国人との交流から受けている具体的な影響にはどのようなものがあるのか」など多岐にわたります。とても簡単には答えが出せそうにもありません。

たたみかけるようにアメリカ側から「あなたたちが考えている国際化は政治経済面のことですか、それとも文化面のことなんでしょうか。とても曖昧な印象をうけるんですが……」という質問が出ます。これには、通訳をつとめていた蝦名さんが思わず割って入り、「日本では国際化という言葉は、一つの定義ではくくれない言葉です。具体的な意味は人それぞれにちがうからです。たとえば、この六人の*パネリストのなかでさえ、合意が得られていないのが実情です」と補足説明を加えました。しかし、アメリカ側からは「日本側の発言を聞いてみると、まるで『国際化しなければならぬ』とだれかに強制されているようにも聞こえるんですが……。実際そうなんですか」という質問まで飛び出します。あわてて日本側が「いや、そんなことはありません。私たち自身が国際化の必要性を認めているんです」と応じる一幕もありました。

番組を終えた通訳の二人が口をそろえて言います。「アメリカ側の突っこみが鋭いということもあります。やはり日本の高校生はまだこうしたディスカッションに慣れていないという気がします。せっかく準備段階で話し合ったいろいろな論点が出てきても、その内容をディスカッションの流れのなかで（X）に生かしていくことができないんです。質問に答えながら、逆にこちらから相手に質問を投げかけるといふキャッチボールも十分に成り立ちませんでした。やはり、こうしたやりとり慣れていないのが決定的な違いだと感じました」。

外国の人びとと直接対話するこうしたCに参加できることはすばらしい経験です。ディスカッションのなかで相互理解を深めるのもってこの機会だからです。しかし同時に、自分の考えを相手に伝えることのむずかしさを、日本側参加者はいやというほど感じたようです。こういう、新しいDを使った交流は将来ますます増えるはず。さてみなさんなら、アメリカ側の問いかけにどう答えることになるのでしょうか。

国際化時代を迎えて、コミュニケーション能力や自己表現力の必要性がさかんに唱えられています。たしかに、一人ひとりの市民が自分の考えをきちんともつこと、それを正確に伝えること、そして話し合いができることなどは、今後ますます必要な能力になってくるでしょう。

これらは民主主義社会を動かしていく基礎的な力であるだけでなく、世界中の人びとが知恵を出し合ってグローバル・イシューを解決していくためにも必要な力です。いわば話し合いの能力のあるなしが、地球の未来に大きな影響をあたえるのです。

ただ、日米の高校生の対話でもおわかりのように、異なるバックグラウンドをもつ人びとが話し合いを通じて相互理解にいたるのは、そう簡単なことではありません。話し合ったからといって、わかり合える保証は必ずしもないのです。伝えようと願う気持ちがあれば伝わらないというのも本当ですが、話し合えば話し合うほど、逆に対立が深まるということだってないとは言えないのです。

（渡部淳『国際感覚ってなんだろう』）

A 日程 [AT]

*この番組： アメリカの教育分野を専門とするケーブル・テレビで、日米の高校生がディス

カッションをたたかわせる「ジャパン・トゥデー」という番組。日本の高校生とアメリカの高校生が様々なテーマをめぐって話し合う様子を生放送したもの。

ステロタイプ： 固定観念。

パネリスト： ディスカッション（討論）に参加している人。

グローバル・イシュー： 地球規模で解決が必要な問題。

問一 —— 部 ① 「アメリカ側と日本側の『国際化』についての意識のずれ」とありますが、

(一) アメリカ側と(二) 日本側がそれぞれのどのような立場に立っているのかを簡潔に説明しなさい。

問二

A

D

 に当てはまる語としてふさわしいものを次から選び、それぞれ記号で答えな

さい。

ア イメージ イ テーマ ウ プログラム エ メディア

問三 —— 部 ② 「今後どうすればよいのかという国際化への対応」とありますが、日本側の意見

の例としてふさわしくないものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 同じ町に住む西欧の方とホームパーティーを開く。

イ インターネットを使って他の国の人と交流する。

ウ アメリカで流行しているものだから積極的に取り入れる。

エ 宗教の枠を越えて世界平和について意見交換をする。

問四 — 部 ③ 「ではなぜ日本はアジアではなく欧米との交流に熱心なのか」とありますが、この質問に対するあなたの考えを説明しなさい。

問五 (X) に入る「状況に合わせて適切に行動すること」という意味の四字熟語を答えなさい。

問六 — 部 ④ 「世界中の人びとが知恵を出し合ってグローバル・イシューを解決していくためにも必要な力」とありますが、筆者が必要だと考えていることを三つあげなさい。

③ ①と②の問題文を読み、自分が考えたことを百字〜百五十字で書きなさい。ただし、題名を必ずつけること。

〈問題はこれで終わりです〉

A日程 [AT]

国語 A T

【一】【計三十一点】

- 問1 利害関係だけで人とつながるのではなく、助け合いの温かい心を持ち、人と関わるようになった。(6点)
- 問2 助け合いの心(5点)
- 問3 私と意見が分かれたので切り捨てた人たち。(6点)
- 問4 ウ(4点)
- 問5 エ(3点)
- 問6 互いの特徴を生かし、助け合いながら不完全な面を補い、共に成長する姿を通して、人々に感動をあたえる世界観。(7点)

【二】【計】

- 問1 (1) 国際社会のルールやPKO、貿易問題などの政治経済的側面。
(2) 異国で暮らす人と人との相互理解の推進などの異文化理解に関わる問題。(6点×2)

問2 A イ B ア C ウ D エ(3点×4)

問3 ウ(4点)

問4 省略(5点)

問5 臨機応変(4点)

問6 自分の考えをきちんともつこと。

自分の考えを正確に伝えること。

話し合いができること。(4点×3)

【三】【計二十点】

題名 省略
論述 省略